



獨協大学×田村市船引町長外路地区



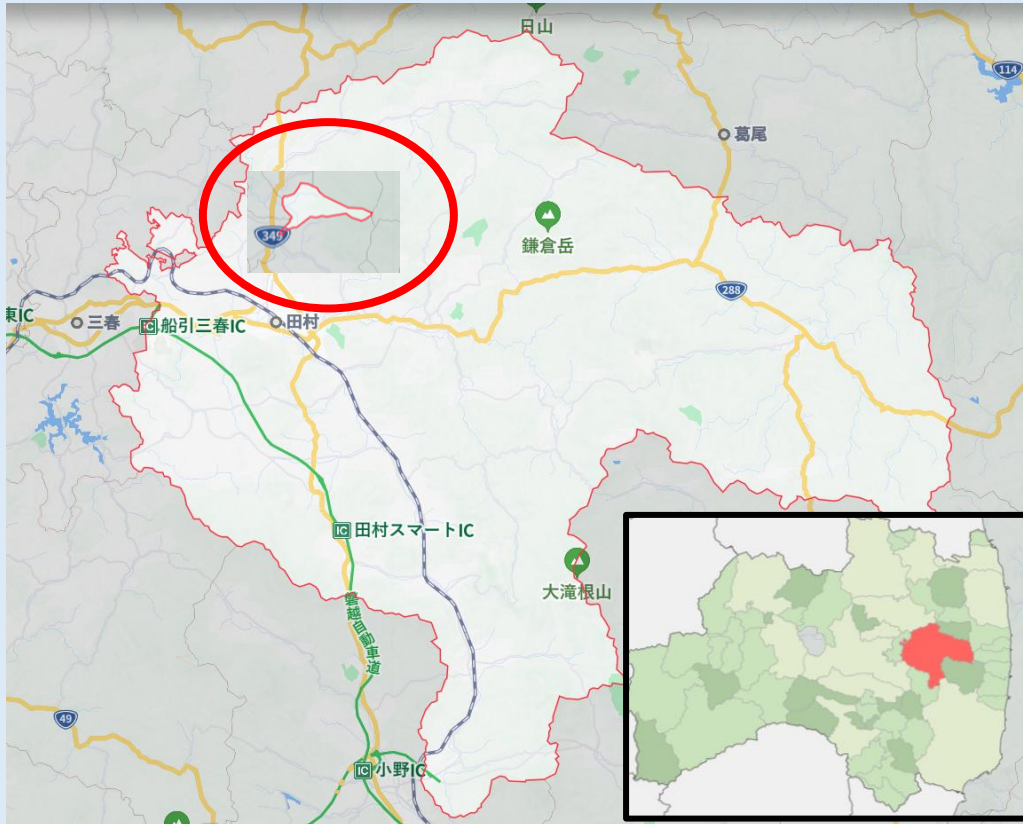
獨協大学 地域活性化プロジェクト 長外路チーム

1.地区の概要と取り組むべき課題

<概要>

中通り「田村市船引町」の山間地域に位置
人口：185人(男性92名、女性93名)

[※2025年10月1日時点]



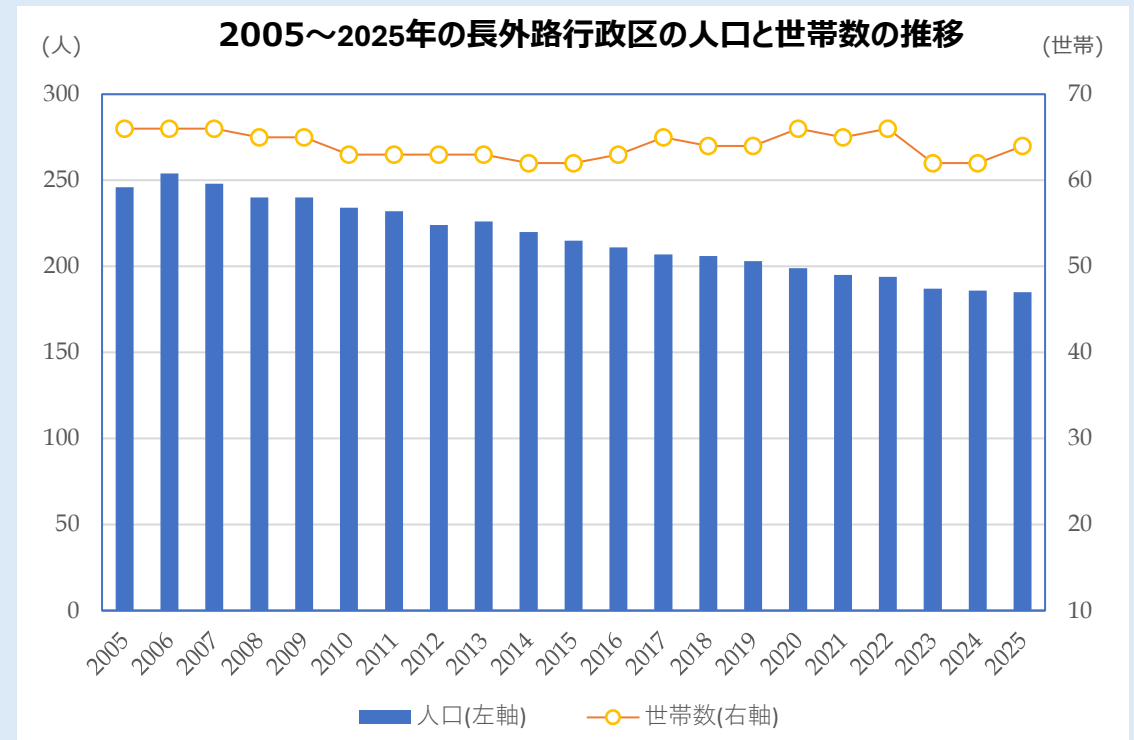
田村市と長外路地区の位置

<活動拠点>

- ・ 長外路城跡(nononowa)、薪の里ながとろ、長外路公民館

<地区の課題>

- ・ 人口減少による伝統や文化の維持困難
- ・ 車に依存した生活構造



[出典]田村市企画調整課提供の「田村市行政局及び行政区別人口、世帯一覧(H17～R7)」より作成。

2.今年度実施した取組みの内容

日付	内容
5/21	第1回MTG(学生)
5/26	第2回MTG(学生&現地)
7/24	第3回MTG(学生&現地)
8/17-18	現地調査①
9/29	第4回MTG(学生&現地)
10/22	第5回MTG(学生)
11/27	第6回MTG(学生&現地)
11/29-30	現地調査②
12/6-7	現地調査③
12/25	長外路新聞の配布

長外路新聞紙面一部抜粋

事業概要

人口減少や少子高齢化が進む地域では、担い手不足などにより、地域住民だけでは集落の活動を維持することが難しくなっています。本事業では、福島県内の集落が、大学生の持つ新しい視点や行動力、専門知識など「外からの力」と交流・協働を通して、地域の復興や活性化を図り、将来的に地域を支える「集落応援団」の育成を目指しています。

獨協大学では、2024年度に「大学生の力を活用した集落復興支援事業」において「地域活性化プロジェクト長外路チーム」が採択されました。現在2年目を迎え、所属する学生は10名からなり、これまで5回にわたって、現地調査を実施してきました。

活動紹介

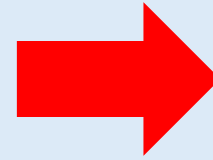
2024/9/14-15	【薪の里ながとろ】ビオトープの生き物や管理方法の講習 【ムシムシランド】昆虫採取、標本作り体験と地域おこし協力隊大口氏の聴講
2024/10/26-27	【長外路公民館】自主防災組織避難訓練の活動支援・交流会に参加 【長外路城跡】再生WSへの参加(ブラックベリーの移植、大雨により削れた地面の強化作業)
2025/2/8	【2024年度活動報告会】2月に福島市で開催された「活動報告会」に参加 →県内の他地域で同様の取組を行う大学生や受入集落、市町村関係者と事例を共有
2025/8/17-18	【第74回灯籠流しと花火大会】住民との交流を通して地区が抱える課題を共有 【長外路城跡】地区の地域資源である渋柿を活用した実証活動の実施。また、コンポストの作成にも協力
2025/11/29-30	【インタビュー①】 にインタビューの実施 【長外路城跡】カブトムシ幼虫の養殖事業で昆虫飼育に用いる「落ち葉集め」に協力
2025/8/17-18	【インタビュー②】 にインタビューの実施 【薪の里ながとろ】カブトムシ幼虫の養殖事業で昆虫飼育に用いる「落ち葉集め」に協力、薪割り体験の実施



2.現地調査①(2025/8/17-18)



灯籠をデザインしている様子



コンポストを作成している様子

- 【第74回灯籠流しと花火大会】**住民との交流を通して地区が抱える課題をメンバー内で共有。
- 【長外路城跡】**地区の地域資源である柿渋を活用した実証活動の実施。また、コンポスト作成協力
- 【評価】**・花火大会に参加して、地域の伝統行事を継続する大切さをメンバー内で共有できた。
- ・柿渋、コンポストの今後の可能性を確認することができたこと。

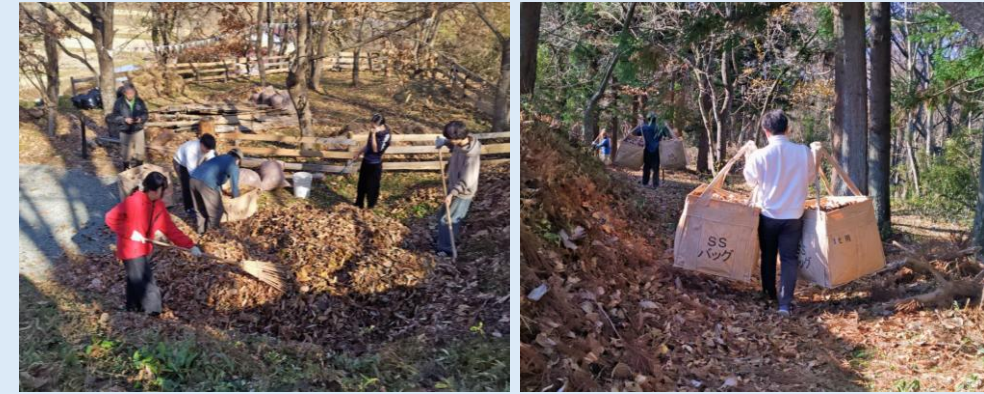
2.現地調査②(2025/11/29-30)



氏へインタビュー



柿渋の発酵状況



落ち葉集めの様子①



氏へインタビュー



柿渋の今後について

氏と協議中



落ち葉集めの様子②

【インタビュー①】 氏(前々区長)・ 氏(元田村市 地域おこし協力隊)

【長外路城跡】柿渋の発酵状況の確認・カブトムシ幼虫飼育に用いる「落ち葉集め」

【評価】柿渋の発酵状況を確認し、今後の方向性を協議することができ、商品化へ一歩前進することができた。

2.現地調査③(2025/12/6-7)



氏へインタビュー



落ち葉集め



堆肥用コンポストへ回収



氏へインタビュー



薪割り体験



自動薪割り機も体験！

【インタビュー②】 氏(前区長)と 氏(薪の里ながとろ)

【薪の里ながとろ】カブトムシ幼虫飼育に用いる「落ち葉集め」・薪割り体験の実施

【評価】カブトムシ養殖事業の現場を見て、昆虫ビジネスへの挑戦と、昆虫の地産地消の可能性を確認できた。

2.その他の活動①(学内開催イベント)



提供していただいた乾燥薪



勢いよく火がつく薪(本学の窯にて)

2025/12/4(木)

(Earth Week Dokkyo 2025～Winter～)

本学にて開催されたイベント時にピザ窯で使用する薪を無償提供していただきました。



提供したピザ



2.その他の活動②（住民インタビュー）

★住民と地域で働く方 計4名にインタビューを実施。次年度は地区全員の実態調査へ拡大していきます。

① 氏

- ・前々区長
- ・造園業
- ・長外路地区 在住

Q地区の魅力

→コミュニティが狭いこと

Q地区の不便な点

→ない！ ※**車**があれば

Q外部との関わりについて

→関わりある。大学生など。

★世代ギャップを感じられる…

Q10年後の姿

→人口減少してしまう…

★**現状の維持**をすること



② 氏

- ・元地域おこし協力隊
- ・nononowa(長外路城)代表
- ・福島と東京の二拠点生活

Q地区の魅力

→自然の豊かさを住んで実感

Q地区の不便な点

→何をするにも**車**が必須な点

Q外部との関わりについて

→関わりはある

★新たな考えや知識を得る

Q10年後の姿

→今を**現状維持**すること

★現在の自然を大切に



③ 氏

- ・前区長
- ・農業協同組合(JA)
- ・長外路地区 在住

Q地区の魅力

→何もないのが魅力

Q地区の不便な点

→ないが、**車**が必須

★返納した後が心配

Q外部との関わりについて

→ない

Q10年後の姿

→**現状維持**すること

★防犯対策に尽力されていた



④ 氏

- ・薪の里ながとろ
- ・元長外路地区 在住
- ・いわき市地区 在住

Q地区の魅力

→自然が豊かであること

Q地区の不便な点

→ないが、**車**が必要である

Q外部との関わりについて

→限られた時間の中ではある

★プライベートで来てもらえるか、

Q10年後の姿

→地域資源を活かして活性化

★しかし、未来は暗くない！



3.まとめ

■今年度の活動の総括

①住民インタビュー実施

→地域の全体調査へ広げていきたい

②実証活動の実現化

→柿渋の商品化・コンポスト・カブトムシの養殖事業

■最もやりがいを感じたこと・新しい発見

→次年度以降の継続事業の確認ができたこと

- ・柿渋の商品化への可能性
- ・落ち葉を活用したカブトムシ養殖事業(地産地消)
- ・地域資源の活用方法(コンポスト)について知ること

■特に評価の高かった取り組み

→住民の方へのインタビュー・長外路新聞の配布



4. 今後に向けて

① 塗料用の柿渋の商品開発

田村市内の企業と協働できないか模索



② 学内で「長外路物産展」を実施

- ・ナツハゼジャム(長外路城)
- ・乾燥薪(長外路城跡)



③ カブトムシ養殖事業への協力

④ 【準備】乾燥薪のオンライン販売を通じた団体活動資金の創出

★次年度：伴走事業に向けて準備を進めていきたい

